

大正山法華寺

# 創立百周年のあゆみ



創立百周年慶讃法要

維時 平成20年10月19日

大正山法華寺

創立百周年のあゆみ

創立百周年慶讃法要



## 創立百周年を迎えて

大正山法華寺第五世住職

内山 智 洋

明治四十二年開基内山孝太郎により現住所に布教所が建てられ、甥で長崎本蓮寺に居住していた内山智耀上人に入寺を再々招請した。当事の北海道は未開の地であり渡道を決心するにいたるまでは、大変な葛藤があったことは、想像に難くない。明治四十三年意を決し妻はつと共に帯広に下向、遷化までの二十七年間にわたり芽室町、音更町に説教所を開設するなど教宣の拡張に奔走し、数多くの弟子を育成し伝道に心血を注いだ。一寺の建立を夢み五十二歳で開拓の地に身を投じ甥智耀上人に自分の意志を継がせた孝太郎の信仰の一念には頭が下がる。しかし七十歳を迎えた孝太郎は、それまでの張りが一気に失せたのか後事一切を智耀に託した。大正二年十月十二日、四年後に完成した本堂を見ることなく、七十六歳のまさに波瀾万丈の生涯を閉じた。明治三十年の孝太郎日蓮宗教会所設立出願より大正十二年大正山法華寺の寺号公称まで実に二十七年間の長い道のりであった。当時冷害による不作が続き不景気となり経済的理由で、昭和八年に第二世藤田光肇に譲り札幌山鼻の立正教会に隠棲するも藤田上人病に罹り、僅か一年で翌昭和九年七月二十二日弱冠三十九歳で遷化される。智耀上人請われ、再び帯広の地を踏むこ

とになる。馬に乗り布教活動に明け暮れるも永年の心身の労苦がたたり床に伏せがちとなり、余命を悟り第四世継承を養子内山智承上人に託し昭和十二年五月六日世寿六十三歳で安詳として遷化される。昭和十五年八月二十八日住職承認、ここに第四世の法灯を継承する。昭和十八年五月二十八日長男智洋（現住職）が誕生するも同年八月応召北支方面に送られ爾来三年間最前線で過ごすことになる。その間三度の負傷を負い死線を越え、昭和二十一年五月六日先代上人の祥月命日に復員した。智承上人は戦後の混乱した社会のなかで、地域社会とどう係わりあい教えを広めるのかを考え、新しい布教方法を取り入れていった。夜庭で幻灯機によるお釈迦様の一代記などの映写会には、大勢の人が集まった。刑務所の教誨師、保護師などのボランティア、檀家回りはオートバイに乗り遠くまで出かけた。又、幼児の仏教教育に熱心にとりくみ、芽室幼稚園を設立した。納骨堂、本堂建て替え、天暗闇、釈迦堂の新築等、寺観を一新した。昭和五十六年六月二十八日宗祖七百遠忌を日蓮宗管長金子日威現下大導師により厳修された。同年七月六日心臓病で入院、同年八月二十一日世寿七十歳で遷化された。

“ただ一人 遠忌事業を説き歩き 病の重さを知りて ありしに”

一人の日蓮宗の信徒が法華経の使命感に燃え一寺建立をめざして、その一生を懸けさせたものは何であろうか。それは日蓮聖人に対する厚い信仰と、私たちのまだ知らないお題目の底知れない力に与るものか。

ここに第五世を教え、創立百周年を迎えるに当たり、先師先哲への報恩の一分として檀信徒相計り、総摩唐門様式山門を建立し、更なる大正山法華寺の発展とお題目の広宣流布に精進することを誓うものである。

平成二十年十月十九日

# 創立百周年 慶讃法要

## 宗祖御入滅第七二七回報恩お会式

### 式次第

灑水散華

第一鐘 午前十時二十分 警 装

第二鐘 午前十時二十五分 会衆昇堂

太鼓 午前十時三十分 師衆昇堂

先 開 式

次 献 灯・献 華  
コーラス（ききぐみ灯）

次 宗 歌 独 唱  
橋詰真由美

次 道 場 偈

次 三 寶 禮

次 切 散 華

	結	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	
退	閉	謝	祝	奉	四	回	唱	祖	慶	咒	読	開	対
										讚			
										讚	・	經	
										鏡			
堂	式	辞	辞	送	誓	向	題	訓	文	鉞	經	偈	揚

コーラス

コーラス

自我偈・コーラス

以  
上

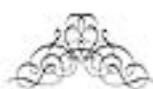
# 所作次第

馨座	对揚導師	副導師	副導師	導師
帶広法華寺中	厚岸法華寺住職	士幌本光寺住職	芽室実勝寺住職	当山住職
内山智道	森脇智亮	本田光一	内山智修	内山智洋

## 式衆

### 会行事

羅口本覚寺住職	清野智優	芽室実勝寺中	内山智伸	旭川正法寺住職	北村舜襄
大掛顕法寺中	高砂寿完	会衆	山口顯辰	釧路法華寺住職	室伏見秀
本別法華寺住職	遠山順繼	秋田本住寺住職	若林逞龍	釧路妙堅寺住職	稲垣見穂
音更妙源寺住職	大沼公経	帯広蓮承寺住職	小川順随	池田妙経寺住職	望月本悠
陸別妙法寺中	早田寿見	秋田日境寺住職	角浜監鏡	知堂	
広尾広教寺中	下森孝俊	北見日定寺住職	岩崎玄秀	帯広法華寺中	谷川智昭
		北見妙秀寺住職		千葉清澄寺中	斉藤英博



# 大正山法華寺年表



明治四十二年

東五条南七丁目九番地に仮住宅兼教会所を再建（この年を以って大正山法華寺起源とす）

大正二年

十月十二日開基内山孝太郎肺炎により帯広病院にて逝去（享年七十六歳）

法名 本行院至心日蓮大居士

五年

本堂新築着工 四月二十八日法華寺本堂上棟式挙行 秋より庫裡の工事施行

六年

七月建築完成 本堂内陣三宝尊、礼盤座附一式 北辰妙見菩薩像、打岐完成安置

八月三日、四日身延山法主 小泉日慈親下來道 落慶式、開眼

八年

八月大本山本門寺貫主 磯野日延親下御来駕

十月芽室布教所（現実勝寺）開設

十一年

十一月大正山法華寺の寺号認可

十二年

八月大正山法華寺寺号公称

昭和四年

開山智耀上人権僧正に昇叙

九月七日・八日 宗祖六百五十年遠忌 御報恩大会開催 身延山杉田日布親下御親教 山丹を賞し靈

像一体・本尊一幅授与さる

十一月七面天女尊像安置さる 身延山法主大僧正 杉田日布親下により開眼

八年

四月開山智耀上人法塔建立、開祖六百五十年遠忌御報恩記念碑文（自叙伝）を刻す

七月境内に十勝露店商功勞碑建立

八月馬頭觀世音菩薩建立（発願人 上徳善七・同祠者 桑原末五郎 平平吉・石田音松）

この年開山智耀上人札幌山鼻立正教会に隠棲す

九月立正教会藤田光肇上人第二世として法燈を継承す

九年 七月二十二日、当山二世境雲院日暉上人遷化（享年三十九歳）

七月二十三日、開山智耀上人三世を継承

九月小湊誕生寺今井権大僧正御親教

十二年 五月六日開山（第三世）智耀上人遷化（本樹院日果上人）享年六十三歳

十五年 一月二十二日信田智承と内山スミ結婚

八月二十八日内山智承上人第四世として法燈を継承す

十八年 三月二十六日第四世長男、第五世内山智洋上人誕生（幼名正己）

五月二十八日第四世御母堂信田タキ刀自札幌にて逝去

八月第四世応召、旭川に入隊、この時弟子三名他一名

二十二年 三月三十一日第四世二男実勝寺四世内山智修上人誕生（幼名知己）

五月旧本堂裏に納牌堂建築

七月大島智真師隨身として勤務 以後二十五年間務む 後実勝寺二世を継承す 四十五年遷化

二十三年 芽室実勝寺の寺号公称、開基内山智耀上人、開山第四世内山智承上人

本樹山実勝寺と称す

二十五年 十一月第四世智承上人身延山行堂入行、大荒行百日を成満

- 智承上人、修法布教師・保護司・宗教教誨師・宗門専任布教師を務む
- 同年佐藤智完入寺 のち身延山大学に入学 北見市の実家に帰り一寺を建立 百日荒行を成満す
- 同年十二月十七日 内山忠次郎逝去享年八十歳
- (同年安藤薫(二十歳―二十七歳)入寺(現山梨県昌林山長明寺住職))
- 三十二年 五月十四日はつ逝去(享年七十五歳) 法名 宝樹院妙薫日華大姉
- 三十三年 八月全道寺院夏期講習会開催 講師 永倉宗務総長他
- 同年、大正山法華寺創立四十周年・開山上人三十三回忌追善供養奉行  
同供養塔建立
- 三十六年 六月十六日 第四世智承上人、権僧正に叙せらる
- 同年東部宗務所長に就任す(三期十二年)
- 三十七年 十一月釈迦堂と新納骨堂建立 開堂供養執行 総代木村一郎氏より釈迦立像寄進さる 開眼智承上人  
本堂・庫裡落慶(施工 横山建設)
- 四十六年 九月十二日 日蓮宗宗務総長渡部日皓親下導師による宗祖御聖誕七百五十年慶讃大法要厳修
- この年、第五世智洋上人、芽室実勝寺に入寺 第三世を継承す
- 四十八年 十二月第四世智承上人、日蓮宗第三十五区宗会議員に当選す
- 五十二年 十一月、第四世智承上人 日蓮宗第三十五区宗会議員二期当選
- 七月智承上人の呼びかけにより、青年研修組織「布薩会」発足 月例学習会・信行会・年一回の移動  
研修会等実施さる
- 五十四年 新增築建設委員会発足(委員三十名・委員長小室正氏)

五十五年

四月萩原建設施行 客殿「天晴閣」位牌堂・厨房完成す

十月日蓮聖人銅像建立（発起人荒関吉之助氏）

水子子育地藏寄進（世話人・谷口博敏氏他三十名）

門柱二本建立

五十六年

四月末日 新增築工事完了 式典実行委員会（百八名）委員委嘱

実行委員会総会開催 常任委員二十名決定 実行委員長 小室吉助氏

六月二十七日・二十八日、宗祖日蓮大聖人七百遠忌並びに大正山法華寺客殿落慶大法要厳修

金子日威大本山池上本門寺管長親下御親教 塩田総長親下他本州寺院二十名・道内寺院四十名参列

同日グランドホテルにて金子日威管長 塩田総長親下御臨席によるレセプション開催

六月十九日 第四世智承上人 日蓮宗僧階権大僧正に叙せらる

六月、大正山法華寺檀信徒一同智承尊聖に彰敬文を呈し法衣一式を献贈

六月 木村一郎、内藤昇、高谷清、島崎秀次、壺 愛の各氏に終身名誉総代栄誉賞を贈与さる

七月六日 智承上人心臓病で国立帯広病院に入院

八月一日 智承上人 日蓮宗門より一級法功章を授与される

八月二十一日智承上人心臓病にて遷化 二十三日密葬（享年六十九歳）

九月十六日 祥雲院日瑞上人本葬 導師日蓮宗管長大本山池上本門寺管首金子日威親下

十一月四日 内山智洋上人 芽室実勝寺を退任 内山智修実勝寺第四世を継承入寺

五十七年

五月二十三日 内山智洋上人法華寺の法燈を継承第五世となる

七月十一日 舍利供養塔建立（つつじが丘霊園内）

五十八年	八月二十日、二十三日 北海道教区夏期講習会開催・日瑞上人第一回忌法要奉行 八月二十一日 日瑞上人第三回忌法要奉行
六十二年	六月二十一日 大正山法華寺創立八十周年記念・開山本樹院日果上人五十回忌法要。第四世祥雲院日瑞上人七回忌法要の三大法要奉行 導師日蓮宗宗務総長塩田義朗親下他道内外寺院参列 六月 新納骨堂増築工事
六十三年	住宅庫裡新築工事
平成 六年	
七年	五月二日 内山智洋日蓮宗東部宗務所長就任、二期
九年	立教開宗七百五十慶讃事業檀信徒会館新築工事 九月二日、十七日 日蓮宗布教院
十年	九月二十九日、三十日 全国導師法縁繁珠会北海道大会
十一年	二月十日 内山智道日蓮宗大荒行再行成満
十三年	六月十五日 立教開宗七百五十年慶讃十勝地区法要
十六年	九月二十九日、十月五日 日蓮宗声明師養成講習所
十七年	十一月十八日 内山智洋日蓮宗々々会議員に当選
二十年	十月十九日 創立百周年慶讃法要 三門落成法要



## 大正山法華寺創立百周年記念事業報告

大正山法華寺創立百周年実行委員長

梅本俊夫

この度、創立百周年記念事業として総釋唐門様式山門の建立を計画し檀信徒皆様にご寄付をお願いいたしましたところ、私どもの思いをお察しいただき、経済状態思わしくない時期にもかかわらず、快くお申し込みいただき、どうか七月一日に着工の運びとなり、予定どおり九月三十日完成をみました。又、付帯事業として庭の整備も行われ景観を一新し八割方完成しました。心より御礼申し上げます。また決算には至っていませんが勸募が終わり次第、法華寺だよりでご報告申し上げます。寄付金の申し込みにつきましては、本年度三月までをお願いいたしたく存じます。

今後とも法華寺の護持と興隆に一層のご指導ご鞭撻をお願いしてまいります。

平成二十年十月十九日